



白土三平著のカムイ伝というコミックがある。古くから(1960年代)の高度成長時代からのものであり、現在も続いている。主人公カムイは江戸時代の忍者の組織出身であるが、あるとき本人の意思とは別に、生きるためには組織を抜ける

後藤博正

しかない状況に陥る。忍者組織は抜け忍を許さない。これは忍者社会を維持するための掟である。話はカムイのいつ終わるともない逃亡の旅である。追っ手である数々の優れた剣術の使いをことごとく独自の技により倒し、生き残っていく。ある時には、自身を絶望させるような強力な相手とも対決する。カムイの目的は生き残ることだけのようにも思えるが、その過程で様々な人物と遭遇する。困難なこともあるが、彼のもつ賢さと強さで乗り切り、そして去っていく。

また驚異的な環境適応

性で移動先のさまざまな社会に溶け込んでいく。その中でカムイは優しく義理がたい人物に思えてくる。この作者、白土三平氏とは一体どういう人なのだろうか。絵は一種独特で、幻想的な感ずらある。カムイ伝とは別にカムイの生き残りに賭ける側面から描いた「カムイ外伝」もある。カムイ伝・カムイ外伝を通して、当時の庶民の生活が詳細に紹介されている。

著者である田中優子氏

コミックから見る江戸文化

カムイ伝講義

田中優子著

は江戸時代に関する研究者である。「カムイ伝講義」において、カムイを通し民俗学も盛り込み、江戸時代の文化、生活を現代社会と対比させながら当時の農業・山・海・武士・庶民などについて分かりやすく解説している。そして、これらは現代にもつながることでもあるが、いくつかは忘れられてしまっていることも述べられている。さらに、今の社会に無用と思われる

る事柄の中に、真に社会や世界の救いになるものがあるところづらわれている。同時代の人々が必死に生き、人生を全うする生き様も解説されている。

現代社会ではインターネットによる高度な通信や情報化、そして交通機関の発達がなされ、過去とは比べ物にならない程すべてが高速化され、また物もあふれ便利になっていく。しかし実生活や人生を考えた時、現代は、そのころに生きた人たちと何が違うのだろうかとの疑問が生ずる。(小学館・1575円)